



立教セカンドステージ大学

News Letter mini Vol. 10

お問い合わせ

2021 Spring (最終号)

立教セカンドステージ大学(RSSC)事務室

E-mail: rssc@ml.rikkyo.ac.jp TEL: 03-3985-4672

新しいセカンドステージ大学を目指して II RSSC 教員 立教大学名誉教授 成田 康昭



RSSC の 2020 年度は、コロナ禍の暗中模索のなかでスタートし、多くの経験を残して終わりました。秋学期からの、時間的に限られた開講であり、入学してくれた受講生も 12 名と例年に比べて圧倒的に少なかったのですが、修了論文を書き上げた受講生の皆さんの顔からは、前に進んだ自信と満足感を感じます。RSSC も春に予定されていた科目を含め、可能な限り秋のカリキュラムを揃えるなどの努力をしました。オンラインでの各講義は、一人とか二人といった、驚くほど小規模な授業も珍しくありませんでしたが、受講生の皆さんはこれにも「大変に贅沢な経験だった」と評価してくれました。

やむを得ず、オンラインを採用してのスタートでしたが、そこから学んだことも多くありました。オンラインによって、距離を簡単に超えて、ともに生き生きと学ぶ場を作ることができることは貴重な発見でした。「オンラインによる日本中のシニアに向けた RSSC」というような夢が、RSSC の新たな展開として紹介できる日が来るかもしれません。これからのシニアにとっては、オンラインというツールを味方につけることは、活動の場を広げる大事なステップであることもはっきりしてきました。ワードや Excel、メール、Zoom、SNS などを使いこなすだけでなく、それを使って、仲間を作り、互いを知り、協働し、助け合うという課題に挑戦していただきたいと思います。

RSSC の一年 修了のとき

桜が開花し始めた 3 月末、RSSC の本科・専攻科入学から 1 年、立教セカンドステージ大学も修了のときを迎えます。

修了式は、4 月の入学式と同様に、池袋キャンパス諸聖徒礼拝堂で行なわれます。学長の訓辞・チャプレン長から祝祷をいただき、パイプオルガンの音色が流れる厳かな雰囲気の中、受講生はそれぞれの思いを胸にこの 1 年を振り返ります。

修了式後に教室に場所を移して行われる修了証書授与式では、ゼミナール担当教員から修了生 1 人 1 人に修了証書が授与されます。式典が終わると、キャンパスで過ごした日々、修了論文やゼミナールの思い出話が始まります。また、この日は皆さんスーツや着物など特別な装いで参加。教室のあちこちで記念撮影のフラッシュが光り始め、満面の笑顔とともに、写真に納まります。

そして、本当に最後の締めくりとなる**修了パーティ**では、修了パーティ委員が企画した余興が行われ、教員、受講生が一緒になって、キャンパスライフを味わい尽くすかのように盛り上がりまします。一昨年の余興では、「ウタテラス同好会」による合唱、立教大学学生団体「合唱団アヒル会」の和太鼓・お琴の演奏、「体育会応援団」による修了を祝う演舞に感動をもらいました。

今年度は、コロナ禍で春学期の開講がかなわず、秋学期からの半年間の開講となりました。初めてのオンライン授業など、受講生にとっては戸惑いや苦勞がたくさんあったと思います。またその一方で、オンラインについて新しい挑戦や発見ができた、特別な年でもあったのではないのでしょうか。これからも、皆さんの学びの情熱に応え、学びの場を提供し続けられるよう、RSSC も歩みを止めず、進化していきたいと思ひます。

RSSC 事務室から、キャンパス便り

立教大学のシンボリック存在の本館(モリス館)は、1918 年に米国聖公会宣教師アーサー・ラザフォード・モリス氏の寄付によって建設され、その後 1999 年に東京都選定歴史的建造物に指定されました。4 本ある塔のうち、1 本だけ他より高くなっているのは、関東大震災後に修復工事が行われた際、1 本だけに煙突の機能を備えたためだと言われています。



校舎に隠された「立」のマーク

池袋キャンパスの瓦屋根に注目すると、シンボルマークや校旗に使用されている「立」のマークが発見できます。また、1967年に完成した新座キャンパスのチャペルとチャペル会館は、五角形の回廊でつながれ、上空から見ると「立」の形となるように配置されています。隠されたマークを探しながら、キャンパス内を散策してみたいかたがでしょうか。

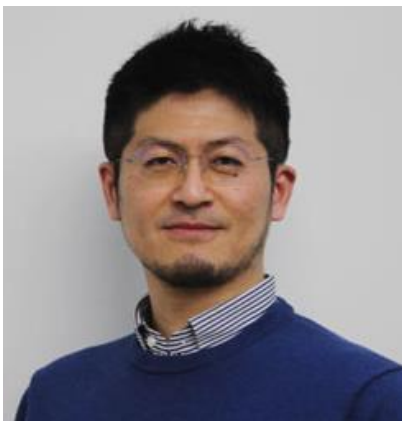


左:屋根瓦
右:五角形の回廊



私の研究とSDGs

RSSC 学長補佐
立教大学法学部教授 河村 賢治



私は法学部の教員で、商法（特に会社法と金融商品取引法）を研究しています。RSSCの皆さんとは、「学問の世界A」（RSSC必修科目）の第2回目・第3回目のほかに、「SDGsとビジネスロー」（RSSC選択科目）や「SDGs×AI×経済×法律」（全学共通科目）でお会いするかもしれません。

すでにご存じの方が多いと思いますが、SDGsとは、2015年に国連が定めた持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals）のことです。「あらゆる場所あらゆる形態の貧困を終わらせる」や「気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる」など17の目標が定められており、国・企業・市民など様々なレベルで目標達成に向けた取り組みが進められています。

私が商法の研究者として、社会・環境問題やビジネスローとの関係を深く考えるようになった大きなきっかけは、2013年に1100人を超える方が亡くなったラナプラザビルの崩落事故でした。このビルには欧米などで販売される衣服の縫製工場などが入居しており、ビルに亀裂が入っていたにもかかわらず操業が続けられたといわれています。私は、東京都写真美術館で開催された世界報道写真展で、この事故の犠牲となった二人を写した「最後の抱擁（Final Embrace）」という写真を見て、動けなくなってしまいました。自分の専門分野で何かできることはないだろうかと強く考えるようになったのです。

2021年現在、新聞やテレビでSDGsの文字を見ない日はないといっても過言ではないでしょう。見せかけだけのSDGsウォッシュも問題になっています。このコラムではSDGsについて学び、考えたい方のために、3冊の本を紹介しておきたいと思います。まず、①蟹江憲史『SDGs（持続可能な開発目標）』（中央公論新社、2020年）です。SDGsの第一人者による著作ということで、マニュアル本とは一味違う内容となっています。私が好きな箇所の一つは、SDGsは「答えは書いてあるが、その答えを導くプロセスが書かれていない問題集である」、「試されるのは、子供たちの発想力を寛容に、そして対等な立場で受け止めることができる、大人の力量ではなかろうか」という部分です。学部学生との異世代共学を行うRSSCにとっても参考になる指摘だと



思います。次に、②斎藤幸平『人新生の「資本論」』（集英社、2020年）です。この本は、「SDGsはまさに現代版「大衆のアヘン」である」という刺激的な言葉で大変有名です。著者は危機の原因は資本主義にあるとし、解決策のヒントを晩年のマルクスの思想の中に見出します。もっとも、こうした著者の見解には賛否両論あるでしょう（このあたりは授業で皆さんと考えたい部分です）、次の本も併せて読んでほしいと思っています。それは、③ハンス・ロスリング他『FACTFULNESS』（日経BP社、2019年）です。この本は、人間は「ネガティブ本能」や「焦り本能」など10の思い込みで囚われがちであることを指摘し、データを基に世界を見ることの大切さを教えてくれます。「数字を見ないと、世界のことはわからない。しかし、数字だけを見ても、世界のことはわからない」という言葉は、医師であり大学教授でもあった著者ならではの指摘ではないでしょうか。

皆さんと共に学ぶことを楽しみにしています。

＜教員専門分野＞
商法